

平成 1 9 年度

宮城県公共図書館長・公民館長研修会講演資料



図書館に期待される役割とサービス計画の立案

【平成19年度公共図書館長研修会】

濱田 幸夫

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科専任講師

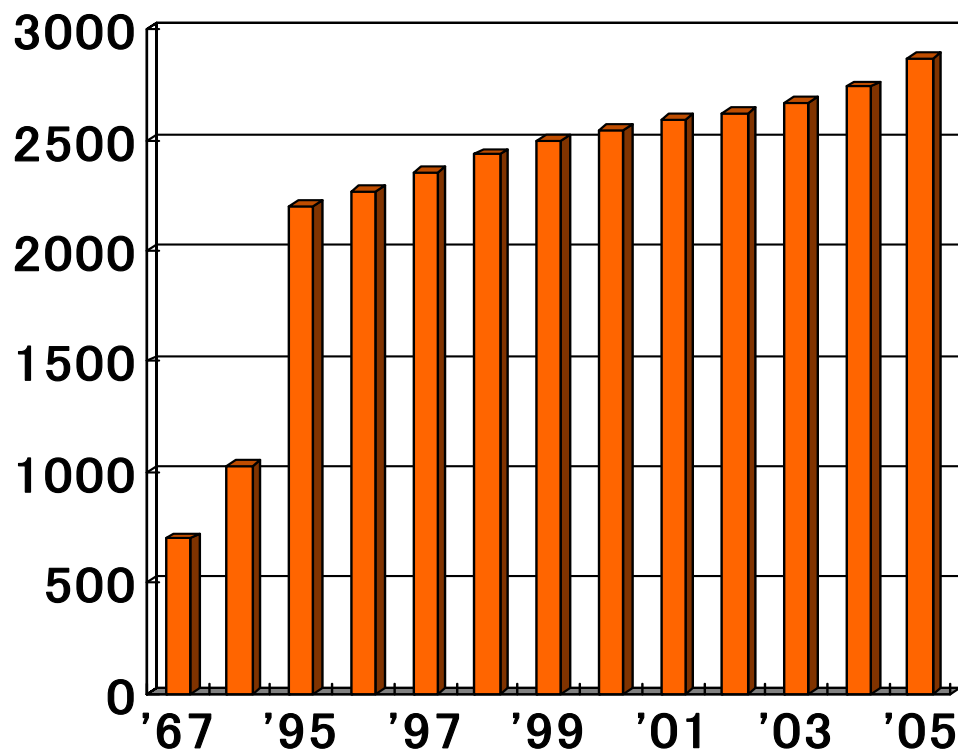
2007.5.11 宮城県図書館



目次

1. 公立図書館の現状
2. 公立図書館に対する期待
3. 文部科学省の公立図書館施策
4. 図書館サービス計画
5. 公立図書館における新しい取組み
6. 生涯学習社会における図書館の役割

図書館数の推移



公立図書館の設置率(2005年)

都道府県立: 97.9%

市(区)立: 97.9%

町立: 53.9%

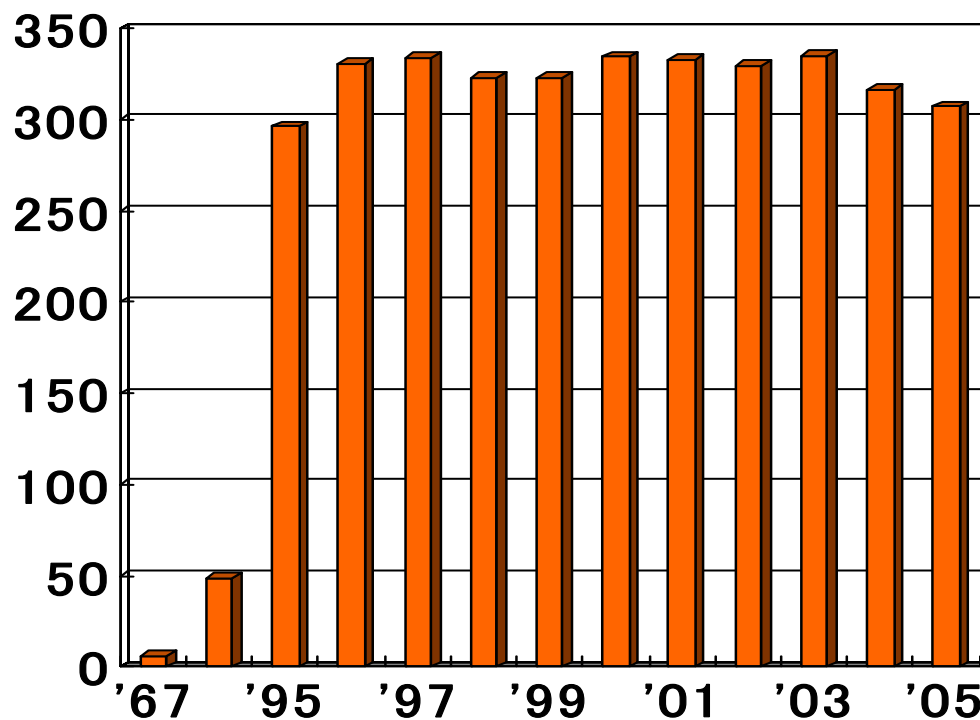
村立: 22.0%

(出典:社会教育調査報告書)

市区町村立図書館総数(出典:図書館年鑑2006)

図書館の資料費の推移

(億円)



市区町村立図書館の年間資料費決算額 (出典:図書館年鑑2006)



【生涯学習に関する世論調査】

(平成17年5月調査・内閣府)

- どのような生涯学習の機会が増えればよいと思うか
→「図書館の図書や情報を充実する」(14.8%＝16位中6位)
- 人々の生涯学習活動をもっと盛んにしていくために国や地方公共団体はどのようなことに力を入れるべきだと思うか
→「生涯学習に関する専門職員(社会教育主事, 司書, 学芸員, 体育指導者など)を育成する」(22.1%＝12位中5位),
「情報を一元化して提供するなど, 現在あるいろいろな施設間の連携をとる」(20.4%＝6位)

<http://www8.cao.go.jp/survey/h17/h17-akushu/index.html>



【IT新改革戦略】

(平成18年1月19日 IT戦略本部)

Ⅱ 今後のIT政策の重点

1. ITの構造改革力の追求

(3) 21世紀型社会経済活動

○ 生涯を通じた豊かな生活

(実現に向けた方策)

4. 誰もが気軽にITを活用して学習ができるよう、図書館を始めとする様々な公共施設の情報化を進めるとともに、それら施設においてITを活用した学習等をサポートする人材を配置する。その一環として、図書館司書の講習における情報機器に関する科目を必修化するなど、ITに通じた図書館司書を育成する。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/060119honbun.pdf>



【今後の生涯学習の振興方策について】

(平成16年3月29日・中央教育審議会生涯学習分科会)

Ⅱ 今後の生涯学習振興方策の基本的方向

2. 生涯学習を振興していく上で今後重視すべき観点

(4) 国民一人ひとりの学習ニーズを生かした、広い視野に立った多様な学習の展開等

- ① …誰でも、いつでも、どこでも学べるように、大学や公民館、図書館等の改善を図ることが必要である。また、国民一人ひとりの学習ニーズを生かした、個々人が利用しやすく、学習意欲が高まるような学習機会の提供等を図っていくことが必要である。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/toushin/04032901.htm



【文字・活字文化振興法】

(地域における文字・活字文化の振興)

第七条 市町村は、図書館奉仕に対する住民の需要に適切に対応できるようにするため、必要な数の公立図書館を設置し、及び適切に配置するよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、公立図書館が住民に対して適切な図書館奉仕を提供することができるよう、司書の充実等の人的体制の整備、図書館資料の充実、情報化の推進等の物的条件の整備その他の公立図書館の運営の改善及び向上のために必要な施策を講ずるものとする。



【子どもの読書活動の推進に関する法律】

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

【公立図書館の設置及び 運営上の望ましい基準】

(平成13年7月18日文部科学省告示第132号)

- 図書館法第18条に基づき、公立図書館の健全な発展に資するため、設置及び運営上の望ましい基準を定めたもの。
- 都道府県立図書館及び市町村立図書館について、自己点検・自己評価を行いつつ、計画的な図書館サービスの実施を行うべきことや具体的な図書館サービスの留意事項について指摘している。

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/k20010718001/k20010718001.html

【地域の情報ハブとしての図書館 —課題解決型の図書館を目指して—】

(平成17年1月28日・図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会報告)

- 「地域公共ネットワーク」の整備に合わせ、公立図書館は、地域社会における情報蓄積及び情報発信の拠点として積極的なサービスの展開を図るべき。
- 優先的に取組むべき地域の課題の例は以下の通り。
 - ビジネス支援
 - 医療関連情報
 - 地域情報提供・地域文化発信
- 地方の財政・定員の状況からは、実現可能性は？

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401.htm

文部科学省の公立図書館施策 3

【これからの図書館像

—地域を支える情報拠点をめざして—】

(平成18年3月・これからの図書館の在り方検討協力者会議報告)

- 「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」施行後の社会や制度の変化、新たな課題等に対応して、これからの図書館運営に必要な新しい視点や方策等を提言。
- 積極的なサービスを行っている公立図書館の実践事例を紹介。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701.htm



『これからの図書館像』の内容 1

【これからの図書館サービスに求められる新たな視点】

- 図書館活動の意義の理解促進
- レファレンスサービスの充実と利用促進
- 課題解決支援機能の充実
- 紙媒体と電子媒体の組合せによるハイブリッド図書館の整備
- 多様な資料の提供
- 児童・青少年サービスの充実
- 他の図書館や関係機関との連携・協力
- 学校との連携・協力
- 著作権制度の理解と配慮



『これからの図書館像』の内容 2

【これからの図書館経営に必要な視点】

- 図書館の持つ資源の見直しと再配分
- 図書館長の役割
- 利用者の視点に立った経営方針の策定
- 効率的な運営方法
- 図書館サービスの評価
- 継続的な予算の獲得
- 広報
- 危機管理
- 図書館職員の資質向上と教育・研修
- 市町村合併を踏まえた図書館経営
- 管理運営形態の考え方



公立図書館と大学図書館の比較 (公立図書館のサービス展開のヒントとして)

- 最近の大学図書館のサービスを特徴づける点
 - 電子出版物の提供
 - Eメール・オンラインによるレファレンスサービス



電子ジャーナルの提供

- 学術雑誌は研究を行う上で不可欠
- 1990年代から学術雑誌の価格高騰
→ 大学での購入タイトル数の減少が顕著
- 学術雑誌の電子ジャーナル化が進行
- 諸外国では複数の大学によるコンソーシアム契約(=共同購入)で利用可能タイトル数を拡大する動きが進む



日本の大学での取組み

- 国立大学では、会計法等の制約により、電子ジャーナルの前金払・共同購入ができなかった
 - 国立大学図書館協議会・文部科学省の共同した取組みにより、前金払・擬似的共同購入が実現
- 外国出版社との直接交渉により、ほぼ同額の予算で約3倍のタイトルが電子ジャーナルで利用可能に
- これらの取組みを通じて、大学図書館が得たことは何か？
 - 大学図書館職員の自信と新たな取組み



Eメール・オンラインでのレファレンス (東京大学附属図書館のASKサービスの取組)

- 利用者がレファレンス質問をWebのフォームから送信し、メールで回答を得ることができるサービス。
- 質問は学部図書室も含めた図書館職員のメーリングリストに配信され、調査回答に最も適した図書館が回答。その回答は質問者にメールで届き、同時に図書館職員のメーリングリストにも配信され質問・回答ともに職員間で共有される。

<http://libsv.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/index.jsp>

- ★公立図書館でのレファレンスサービス向上へのヒント
 - 図書館の開館時間外にも受付可能
 - 職員ごとの回答レベルの差の解消と受付窓口の一本化
 - 事例の共有・蓄積による、他職員への研修効果



図書館長の苦悩？

- 専門職のいない図書館では、
 - ・現在のサービス水準は十分なのか、分からない
 - ・どんなサービスをしていけば良いか、分からない
 - ・現在の活動に対する漠然とした不安

- 専門職のいる図書館では、
 - ・過去の学習や成功体験の呪縛
 - ・今後の活動に対する漠然とした不安
 - ・特定の職員が長期間勤務していることによる弊害？



図書館サービス計画の作成 1

- どんな期間で目標を達成するか
 - ・中長期計画(3～5年)
 - ・年度ごとの目標
 - ・一つの行事に対して
- どんな区分で目標を達成するか
 - ・図書館全体として
 - ・業務ごとに
 - 蔵書構成、児童サービスの充実 など



図書館サービス計画の作成 2

- 地域の特徴を知ろう
- 誰が、どんなサービスを求めているのか
- 本当に図書館が担うべきサービスなのか

それらを踏まえて、

- どんな図書館を目指すのか、明確なビジョンを持とう
- 図書館長がリーダーシップを発揮して、すべての職員と問題意識を共有しよう
- 情熱をもって仕事をしている人とのネットワークを作ろう
- 図書館の取組みを住民や行政、首長・議員に広く広報して、応援団になってもらおう



図書館を取り巻く環境の変化の例

- 自家用車・運転免許取得者の増加
- 趣味・娯楽の多様化
- 高学歴社会
- インターネットの普及

これらの社会変化が意味することは？

→公立図書館は社会の変化から独立しているのではない



図書館長に求められる役割・能力とは

- 施設・組織の管理者として
- 職員の上司として
- 図書館サービスの担い手の一人として

こんなことも意識してみよう

- 公的機関の一つという位置づけ
- 図書館という専門性
- 地域の顔として



新しいサービスへのチャレンジ

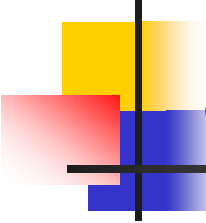
新しいサービスを始めようと思うけれど・・・

- ・予算はない
 - ・職員も限られている(最悪の場合・・・司書もいない)
- でも、何か始めないと始まらない

いまある資源の集中化、再構築ができないか考えてみよう

そして、

- 常に何かをしたいと思う気持ちを持ち続けること
- 県立図書館は、頑張りたいと思っている市町村立図書館の活動を支援します



生涯学習社会における図書館の役割

- 「生涯学習社会」とは何なのだろうか
- 公立図書館が果たすべき役割は何なのか
- 来館者数や図書の貸出冊数の増加を喜ぶだけでよかったのだろうか

最後に

- 公立図書館が担うべき公共サービス機関としての役割とは何か、改めて考えよう。



くりはら田園鉄道(平成19年3月31日廃止)

ご清聴ありがとうございました



▼申込受付中！▼

筑波大学公開講座「『これからの図書館像』を実現するには」

日時:6/11(月)9:30-17:15

会場:筑波大学春日キャンパス

詳細は大学ホームページ

<http://www.tsukuba.ac.jp/community/extension/pdf/education3.pdf>

をご参照ください。

<締切:5月14日(月)>

～お知らせ～

筑波大学図書館情報メディア研究科では、平成20年度も図書館経営管理コースを開催します。(授業は春日地区(つくば)と大塚地区(東京)で開講。)詳細は、大学ホームページにて。<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/>